

臨牀 消化器内科
第 38 卷 ● 総目次

Vol. 38／No. 1～No. 13
(2023 年 1 月号～12 月号)

特 集

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|---|
| No. 1 | 消化管内視鏡治療のリスク克服に向けて | No. 8 | 急性膵炎診療ガイドライン改訂と
Pancreatitis Bundles を読み解く |
| No. 2 | 膵癌の早期診断—診療ガイドラインの改訂を踏まえて | No. 9 | GERD 診療 Update 2023 |
| No. 3 | 黄疸を極める | No. 10 | ここまで進んだ肝硬変診療 |
| No. 4 | あなたの知らない IBD 診療の世界 | No. 11 | 消化管出血のマネジメントが変わっている？—最新情報と診療の
実際 |
| No. 5 | 消化管狭窄に対する内視鏡的
バルーン拡張術 | No. 12 | 非乳頭部十二指腸腺腫・癌の診療
方針 |
| No. 6 | 臨床に必要な消化管アレルギー疾患 | No. 13 | 胆膵の画像・内視鏡診断の進歩
—早期診断と正確な診断のために |
| No. 7 | 肝疾患—診療のチェックポイント
2023〔増刊号〕 | | |

●Vol. 38 No. 1 消化管内視鏡治療のリスク克服に向けて

巻頭言	田邊 聡	5～6
1. 待機的内視鏡治療に潜むリスクとそのマネ ジメント		
(1) 食道・胃静脈瘤治療	引地 拓人・加藤 恒孝 高木 忠之・中村 純 橋本 陽・小橋亮一郎	7～16
(2) 食道 EMR/ESD	吉井 俊輔・石原 立	17～22
(3) PEG	櫻谷美貴子・比企 直樹	23～28
(4) 胃 EMR/ESD	八田 和久・小池 智幸 齊藤 真弘・宇野 要 浅野 直喜・正宗 淳	29～35
(5) 大腸ポリペクトミー	豊島 治・西澤 俊宏 松野 達哉・小田原成彬 藤澤 剛太・吉田俊太郎	36～41
(6) 大腸 EMR/ESD	山村 健史・中村 正直	

	前田 啓子・澤田つな騎 石川 恵里・古川 和宏 川嶋 啓揮	42～47
(7) 消化管ステント	佐々木 隆	48～53
2. 緊急内視鏡治療に潜むリスクとそのマネ ジメント		
(1) 上部消化管止血術	船坂 好平・伊藤 信仁 古川 和宏・柴田 知行 川嶋 啓揮・廣岡 芳樹	55～59
(2) 下部消化管止血術	新倉 量太	60～65
(3) 異物除去	保坂 祥介・羽鳥 清華 伊藤 峻・深川 一史 松川 美保・小野 敏嗣	66～71
(4) 結腸軸捻転解除術	木下 淳・井口 幹崇	72～75

3. 先進内視鏡治療に潜むリスクとそのマネジメント			(3) EUS の有用性	吉田 晃浩・鎌田 研 三長 孝輔・山雄健太郎 竹中 完・工藤 正俊	178～182
(1) 経口内視鏡的筋層切開術(POEM)	井上 晴洋・安藤 涼平	76～79	(4) CT, MRI の役割	井上 大・戸島 史仁 小森 隆弘・蒲田 敏文	183～188
(2) 内視鏡的逆流防止粘膜切除術	太田 和寛・竹内 利寿 岩坪 太郎・菅原 徳瑛 箱田 明俊・樋口 和秀	80～83	(5) ERCP および膵液細胞診の役割	芹川 正浩・石井 康隆 壺井 智史・中村 真也 池本 珠莉・岡 志郎	189～194
(3) 十二指腸 EMR/ESD	窪澤 陽子・加藤 元彦 矢作 直久	84～87	(6) 外科的治療を含めた集学的治療	大目 祐介・本田 五郎 川本 裕介・植村修一郎 高山 敬子・菊山 正隆	195～204
(4) 小腸内視鏡治療	矢野 智則	88～90	(7) 術後経過観察と長期予後	蔵原 弘・又木 雄弘 伊地知徹也・山崎 洋一 川崎 洋太・大塚 隆生	205～209
●Vol. 38 No. 2 膵癌の早期診断			[コラム] 膵癌早期診断に向けた患者会の活動	眞島 喜幸	210～212
―診療ガイドラインの改訂を踏まえて			●Vol. 38 No. 3 黄疸を極める		
巻頭言	花田 敬士	125～126	巻頭言	中川 勇人	245～246
1. 膵癌の早期診断はなぜ必要か	花田 敬士	127～130	1. ビリルビン代謝と黄疸の発症機序	佐藤 雅哉	247～252
2. 膵癌早期診断のために知っておきたい病理学的知見	大森 優子・古川 徹	131～138	2. 黄疸の鑑別診断と検査手順	内野 康志	253～257
3. 膵癌早期診断のアルゴリズム			3. 肝細胞性黄疸		
―「膵癌診療ガイドライン」2022 を踏まえて			(1) 急性肝炎と黄疸	柿坂 啓介・遠藤 啓 吉田 雄一・宮坂 昭生 黒田 英克・松本 主之	259～264
蘆田 玲子・江守 智哉 北野 雅之	139～146		(2) 肝硬変と黄疸	赤羽たけみ	265～270
4. 膵癌スクリーニングの可能性			(3) 薬物性肝障害と黄疸	樺村 敦詩	271～277
―早期診断に向けて			(4) 体質性黄疸	小林 由直	278～284
(1) リスク因子による絞り込み	佐上 亮太・錦織 英史 佐藤 孝生・水上 一弘 村上 和成	147～153	4. 胆汁うっ滞性黄疸		
(2) 膵癌の早期診断を目指した十二指腸液中バイオマーカー探索	井手野 昇・中村 聡 中村 雅史	154～157	(1) 原発性胆汁性胆管炎と黄疸	山下 裕騎・城下 智	285～291
(3) 地域発の膵癌早期診断プロジェクト	清水 晃典・花田 敬士 田妻 進	158～164	(2) 原発性硬化性胆管炎と黄疸	水野 卓	292～296
5. Stage 0, I A 膵癌の診断と治療			(3) 胆石と黄疸	朝川 大暉・竹中 喬紀 田中 宏樹・松崎 晋平	297～302
(1) 臨床徴候・画像所見の特徴			(4) 悪性胆管狭窄と黄疸	藤澤真理子・木暮 宏史 齋藤 圭・野村 舟三 國吉 宣行	303～310
―多施設共同研究の成績から	菅野 敦・池田恵理子 安藤 梢・三輪田哲郎 横山 健介・玉田 喜一 福嶋 敬宜・佐田 尚宏	165～170			
(2) US の役割	高山 敬子・田中マリ子 本田 五郎・森下 慶一 伊藤 泰斗・古川 徹	171～177			

5. 消化器内科医も知っておくべき黄疸		
(1) 溶血性貧血と黄疸	田岡 和城	311～317
(2) 小児肝疾患と黄疸	乾 あやの・藤澤 知雄	318～323
(3) 新生児黄疸	日下 隆	324～329
●Vol. 38 No. 4 あなたの知らない IBD 診療の世界		
巻頭言	加藤 順	365～366
1. 既存治療の update		
(1) UC に対する 5-ASA 製剤とステロイドの使い方	高尾 政輝・岩橋 優美 前北 隆雄・井口 幹崇 北野 雅之	367～372
(2) バイオ製剤を用いない場合のクローン病の治療法—治療前評価の重要性、および栄養療法, ステロイド(ブデソニド含む), チオプリン製剤の活用方法	久能 宣昭・芦塚 伸也 今給黎 宗・石橋 英樹 船越 禎広・平井 郁仁	374～380
(3) UC における CAP 療法の位置づけ	山本 隆行・下山 貴寛	381～386
(4) UC におけるバイオ製剤を回避する方法—サラゾスルファピリジン, 局所製剤およびチオプリン製剤の上手な使い方	黒川 憲・藤城 光弘	387～392
(5) 腸内細菌と IBD のトピックスを探る	筋野 智久	393～399
2. 新規治療法・検査法		
(1) UC におけるバイオ製剤の選択	佐野 泰樹・本澤 有介 長沼 誠	401～406
(2) UC に対する経口分子標的薬—JAK 阻害薬, カロテグラストメチルは UC のどの場面で使うのか? (JAK 3 剤の使い分けも含め)	横山 佳浩・仲瀬 裕志	407～412
(3) クローン病に対するウステキヌマブ, ベドリズマブの治療効果および薬剤選択	内山 和彦・高木 智久	413～421
(4) IBD に対するバイオマーカーの使い方—血中マーカーと便中マーカー	井口 俊博・平岡佐規子 青山 祐樹・竹井 健介 井川 翔子・高原 政宏	422～428
(5) IBD 診療における体外式超音波の有用性	畠 二郎	429～433
3. 合併症と内視鏡・外科的アプローチ		
(1) IBD 腸管外合併症の診断と治療	松浦 稔	435～440
(2) 小腸検査法とバルーン拡張術	對田 尚・太田 佑樹 齊藤 景子・加藤 順	441～447
(3) UC 関連腫瘍に対する内視鏡的アプローチ	西尾 匡史・平澤 欣吾 国崎 玲子・前田 慎	448～453
(4) UC に対する治療薬の進歩と手術の変遷	内野 基	454～459
(5) クローン病肛門病変への対処法	葛岡健太郎・寺田 俊明	460～465
●Vol. 38 No. 5 消化管狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術		
巻頭言—本特集を企画するにあたって	山本 頼正	493～496
1. EBD の適応と治療前の評価	田中 匡実・菊池 大輔 布袋屋 修	497～502
2. EBD 施行時の抗血栓薬の取り扱い	前嶋 恭平・小野 敏嗣 伊藤 峻・保坂 祥介	503～509
3. EBD における処置具の選択と手技の注意点	北見 元哉・青山 育雄 河南 智晴	510～517
4. EBD 施行時の偶発症とその対策	港 洋平・大圃 研 高柳 駿也・竹内 菜緒 小野 公平・根岸 良充	518～522
5. EBD 後のステロイド局注の有用性	由雄 敏之・藤崎 順子	523～528
6. 食道癌 ESD 後狭窄の EBD	高橋亜紀子・小山 恒男	529～535
7. 食道癌術後・化学放射線治療後の狭窄に対する EBD	吉永 繁高・牧口 茉衣 阿部清一郎・野中 哲 鈴木 晴久・小田 一郎	536～540
8. 上部消化管の良性疾患癒痕狭窄に対する EBD	吉田詠里加・五味 邦代 東畑美幸子・山本 頼正 長濱 正亞	541～546
9. 小腸疾患に対する EBD	大和田 潤・矢野 智則	547～552
10. 大腸疾患に対する EBD	横山 薫・原田 洋平 伊藤 隆士・金澤 潤 別當 朋広・池原 久朝	

11. 消化管術後狭窄に対する RIC 法	草野 央・小林 清典	553～559
	山崎 剛明・砂川 弘憲	
	門田 智裕・矢野 友規	560～565
●Vol. 38 No. 6 臨床に必要な消化管アレルギー疾患		
巻頭言一本特集を企画するにあたって		
	藤原 靖弘	605～606
1. 消化管アレルギー疾患総論	穂苅 量太・東山 正明	607～612
2. 消化管アレルギー疾患の病態と分類	高橋 壮・飯島 克則	613～619
3. 食物アレルギー		
(1) 診 断	福富 友馬	620～624
(2) 治 療	伊藤 悠・小倉 聖剛	
	佐藤さくら	625～632
4. 好酸球性消化管疾患		
(1) 診療ガイドライン	山田 佳之	633～639
(2) 病態と臨床経過	石村 典久・石原 俊治	640～646
(3) 好酸球性食道炎		
a. 診 断	門馬 絵理・川見 典之	
	岩切 勝彦	647～652
b. 治 療	阿部 靖彦・佐々木 悠	
	水本 尚子・八木 周	
	小野里祐介・上野 義之	653～660
c. 無症候性好酸球性食道炎	田中 史生・渡邊 晃弘	
	金森 厚志・沢田 明也	
	藤原 靖弘	661～665
(4) 好酸球性胃腸炎		
a. 診 断	今枝 博之・山田 健人	666～672
b. 治 療	栗林 志行・石原 眞悟	
	保坂 浩子・浦岡 俊夫	673～680
5. 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症	新井 勝大	681～687
6. セリアック病	松本 主之	688～693
●Vol. 38 No. 7 肝疾患—診療のチェックポイント 2023		
第 I 部 診断のチェックポイント		
第 1 章 問診と身体所見のチェックポイント		
	日高 勲	726～731

第 2 章 肝機能検査を読むときのチェックポイント		
1. 血清酵素値の異常をみたとき	由雄 祥代	732～737
2. ビリルビンの異常をみたとき	大久保裕直・池嶋 健一	738～742
3. 肝予備能をみる検査	多田 俊史・熊田 卓	
	狩山 和也・平岡 淳	
	豊田 秀徳・中村進一郎	743～748
4. 肝腫瘍マーカーのチェックポイント	瀬戸山博子・田中 靖人	749～754
5. 肝線維化マーカーのチェックポイント	坂本 和賢・伊藤 清顕	755～759
6. 本邦における肝硬変の疫学	浅岡 良成	760～764
7. 本邦における肝細胞癌の疫学	建石 良介	765～770
第 3 章 肝炎ウイルスマーカーのチェックポイント		
	梅村 武司	771～773
第 4 章 肝画像診断のチェックポイント		
1. 肝障害患者のエコーによる肝疾患画像	西村 貴士・吉田 昌弘	
	東浦 晶子・榎本 平之	
	飯島 尋子	774～783
2. 肝障害患者の肝硬度測定	玉城 信治	784～790
3. 肝内占拠性病変(SOL)の鑑別	木戸 秀典・山下 竜也	
	高田 昇・山下 太郎	791～798
第 5 章 肝疾患鑑別診断のチェックポイント		
1. 薬物性肝障害が疑われるとき	伊藤 隆徳・山本 崇文	
	水野 和幸・石上 雅敏	
	川嶋 啓揮	799～806
2. 肝炎ウイルス以外のウイルス性肝障害が疑われるとき	大原 正嗣・須田 剛生	
	坂本 直哉	807～811
3. 肝硬変での凝固系因子の異常	小倉 英・杉本 和史	
	中川 勇人	812～817
4. 自己免疫性肝炎の診断	阿部 雅則	818～824
5. 胆汁うっ滞疾患の鑑別診断	阿部 和道・高橋 敦史	
	大平 弘正	825～830

6. アルコール性肝炎, 非アルコール性脂肪 肝炎の診断	藤井 英樹	831~835	第11章 門脈圧亢進症に伴う肺病変のチェッ クポイント	草野 央	940~944
第6章 肝硬変合併症診断のチェックポイント				小木曾智美	945~950
1. 食道胃静脈瘤の診断	長沖 祐子	836~841	第12章 肝細胞癌の治療のチェックポイント		
2. 腹 水	瓦谷 英人・吉治 仁志	842~847	1. 穿刺局所療法	南 康範	951~955
3. 肝性脳症の診断	近藤 泰輝・諸沢 樹	848~852	2. IVR 治療	小笠原定久・井上 将法 叶川 直哉・加藤 直也	956~960
第7章 慢性肝疾患における肝細胞癌診断の チェックポイント	中川 美奈・村川美也子 金子 俊・朝比奈靖浩	853~859	3. 肝細胞癌の全身化学療法		
第II部 治療のチェックポイント			(1) 現在の肝細胞癌診療の本邦のガイド ラインについて	土谷 薫	961~964
第1章 急性肝炎治療のチェックポイント	春日 良介・中本 伸宏 金井 隆典	862~866	(2) 肝細胞癌に対する全身化学療法の 治療成績と今後の展望について	小玉 尚宏	965~973
第2章 慢性肝炎薬物療法のチェックポイント			第13章 肝細胞癌の外科治療と生体肝移植の チェックポイント	河口 義邦・赤松 延久 長谷川 潔	974~980
1. B型慢性肝炎の治療目標	榎本 大	867~871	第III部 肝疾患の生活指導		
2. B型慢性肝炎の薬物療法	保坂 哲也	872~878	第1章 慢性肝炎・肝硬変の生活指導のチェッ クポイント	中野 暖・橋田 竜騎 堤 翼・天野 恵介 佐野 有哉・川口 巧	982~987
3. C型慢性肝炎の薬物療法のチェックポイ ント	瀬崎ひとみ	879~883	第2章 脂肪肝の新定義「MAFLD」とは	堤 翼・福永 秀平 川口 巧	988~992
4. C型肝炎ウイルス排除後のチェックポイ ント	疋田 隼人	884~888	第3章 慢性肝疾患に伴うサルコペニア	平岡 淳・多田 藤政 大濱日出子	993~996
5. 自己免疫性肝炎の薬物療法	川田 一仁	889~893	第4章 慢性肝疾患と腸内細菌	土屋 淳紀	997~1001
第3章 アルコール性肝障害治療のチェックポ イント	今 一義	894~898	●Vol. 38 No. 8 急性膵炎診療ガイドライン改訂と Pancreatitis Bundles を読み解く		
第4章 非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD)治療のチェックポイント	鎌田 佳宏	899~904	巻頭言—急性膵炎診療ガイドライン 2021 改訂の ポイント	真弓 俊彦・高田 忠敬 吉田 雅博	1013~1017
第5章 急性肝不全治療のチェックポイント	内田 義人	905~910	1. 急性膵炎の疫学		
第6章 原発性胆汁性胆管炎と原発性硬化性胆 管炎治療のチェックポイント	城下 智	911~919	—近年増加している急性膵炎	池田 未緒・濱田 晋 菊田 和宏・滝川 哲也 松本諒太郎・正宗 淳	1019~1024
第7章 食道胃静脈瘤治療のチェックポイント	石川 剛・高見 太郎	920~926	2. 急性膵炎診療における Pancreatitis Bundles	岡本 好司・高田 忠敬 吉田 雅博・真弓 俊彦	1025~1031
第8章 腹水の治療のチェックポイント	中西 裕之	927~932			
第9章 肝性脳症の治療のチェックポイント	華井 竜徳・清水 雅仁	933~939			
第10章 門脈血栓症治療のチェックポイント	日高 央・魚嶋 晴紀				

3. 急性膵炎診断と重症度判定のポイント	廣田 衛久	1033~1040
4. 重症急性膵炎の担送基準と地域ネットワークの有用性	竹中 完・大本 俊介 工藤 正俊・松本 逸平 竹山 宜典	1041~1048
5. 急性膵炎における初期輸液	土谷 飛鳥	1049~1054
6. 急性膵炎における抗菌薬投与の考え方	岡本 好司・上原 智仁 野口 純也・沖本 隆司 又吉 信貴・山吉 隆友 新山 新・木戸川秀生	1055~1060
7. 急性膵炎の栄養療法と早期経腸栄養の重要性	竹山 宜典	1061~1068
8. 重症急性膵炎における膵局所合併症とインターベンション治療の考え方	樋口 亮太・真弓 俊彦 吉田 雅博・糸井 隆夫 伊佐地秀司・高田 忠敬	1069~1075
9. 胆石性膵炎の初期治療とフォローアップ —胆嚢摘出術のタイミングを含めて	平下禎二郎・増田 崇 遠藤 裕一・岡本 和久 村上 和成・猪股 雅史	1077~1084
10. 急性膵炎の長期予後と長期合併症 —Disconnected Pancreatic Duct Syndrome (DPDS)を含めて	飯澤 祐介・栗山 直久 岸和田昌之・山田 玲子 中川 勇人・水野 修吾	1085~1092
11. ERCP 後膵炎の予防と治療	向井俊太郎・糸井 隆夫	1093~1098
12. 急性膵炎における Abdominal Compartment Syndrome (ACS)	白井 邦博	1100~1107
●Vol. 38 No. 9 GERD 診療 Update 2023		
巻頭言—本特集を企画するにあたって		
1. GERD の疫学	山道 信毅	1125~1126
2. GERD の病態	大島 忠之	1127~1130
3. GERD の診断	川見 典之・岩切 勝彦	1131~1140
	増田恵利香・柳井 優香 赤澤 直樹・横井 千寿 秋山 純一	1141~1148

4. GERD の内科的治療	石村 典久	1149~1157
5. GERD の外科的治療・内視鏡的治療	増田 隆洋・矢野 文章	1158~1164
6. 上部消化管術後食道炎	萩原 信敏・野村 務 櫻澤 信行・川見 典之 岩切 勝彦・吉田 寛	1165~1171
7. Barrett 食道	眞部 紀明・松枝 和宏 中村 純・武家尾恵美子 小西 貴子・春間 賢	1172~1179
8. GERD の食道外症状	浅岡 大介	1180~1185
9. GERD と睡眠障害	栗林 志行・保坂 浩子 杉本さやか・竹内 洋司 浦岡 俊夫	1186~1192
10. GERD 診療における生理機能検査 —基本と応用	稲森 正彦・岩田 悠里 飯田 洋・藤田 浩司 日下部明彦	1193~1200
11. 食道運動機能障害に起因する GERD と関連諸疾患の鑑別	畑 佳孝・和田 将史 水流 大堯・田中 義将 荻野 治栄・伊原 栄吉	1201~1209
12. GERD ガイドライン—海外と日本の比較	沢田 明也・藤原 靖弘	1210~1218
●Vol. 38 No. 10 ここまで進んだ肝硬変診療		
巻頭言—本特集を企画するにあたって		
	清水 雅仁	1237~1238
1. 肝硬変診療ガイドラインを読み解く —Annual Review を踏まえて	赤羽たけみ・吉治 仁志	1239~1246
2. 肝硬変の診断		
(1) Acute-on-chronic liver failure (ACLF) —その病態, 診断基準と課題	持田 智	1247~1252
(2) 肝線維化マーカーと画像診断	飯島 尋子・西村 貴士	1253~1256
3. 成因別肝硬変の診断と治療		
(1) ウイルス性肝硬変の治療 —非代償性も含めた治療成績	田畑 優貴・疋田 隼人	1257~1265
(2) NASH 肝硬変の診断と治療 —MAFLD の概念も含めて	川口 巧・中野 暖 佐野 有哉・堤 翼	

	天野 恵介	1266～1274
(3) アルコール性肝硬変の診断と治療 —診療のコツは？		
	岩佐 元雄	1275～1282
4. 肝硬変合併症の治療		
(1) 肝性浮腫に対する最新の治療 —肝腎相関も含めて	西山 夏子・松本 俊彦 高見 太郎	1283～1292
(2) 肝性脳症に対する最新の治療 —不顕性肝性脳症の病態も含めて	星川 恭子・上野 義之	1293～1299
(3) 静脈瘤と門脈血栓症の治療 —薬物療法から内視鏡治療, IVR まで	日高 央・窪田 幸介 草野 央	1300～1308
(4) 肝硬変にみられる心肺系の異常 —肝肺症候群, PoPH, 肝硬変性心筋症	田中 雄紀・中西 裕之 黒崎 雅之	1309～1317
5. 肝硬変の栄養療法と運動療法 —サルコペニア対策も含めて	徳本 良雄・日浅 陽一	1319～1328
6. 肝硬変症の次世代治療の開発 —抗線維化治療と肝再生療法	寺井 崇二・土屋 淳紀 渡邊 雄介・阿部 寛幸	1329～1333
●Vol. 38 No. 11 消化管出血のマネジメントが変わっている？—最新情報と診療の実際		
巻頭言—一本特集を企画するにあたって	松田 尚久	1349～1350
1. 総 論		
(1) 消化管出血の疫学, 時代的変遷	壺井 章克・平田 一成 松原 由佳・隅岡 昭彦 卜部 祐司・岡 志郎	1351～1359
(2) 消化管出血の診断手順	小池 智幸・八田 和久 尾形 洋平・齊藤 真弘 菅野 武・正宗 淳	1360～1367
2. 各 論		
(1) 食道・胃静脈瘤出血に対する治療ストラテジー	引地 拓人・中村 純 加藤 恒孝・橋本 陽 柳田 拓実・高木 忠之	1369～1380
(2) 消化性潰瘍出血に対する治療ストラテジー	福田 翔・飯島 克則	1381～1387

(3) 消化管出血に対する IVR の適応と実際	佐藤 次郎・増沢 遙加 荒川 博明・桂 正樹 三瀬 葉子	1389～1394
(4) 小腸出血に対する診断・治療ストラテジー	橋元 幸星・矢野 智則	1395～1402
(5) 大腸憩室出血に対する治療ストラテジー	岸埜 高明・青木 智則 永田 尚義	1403～1411
(6) 腫瘍性病変からの出血に対するマネジメント	山崎 嵩之・鈴木 晴久 吉永 繁高	1413～1419
(7) 炎症性腸疾患患者における出血のマネジメント	野上 章・小林 拓	1420～1424
(8) 放射線性腸炎患者における出血のマネジメント	十倉 淳紀・千野 晶子	1425～1431
3. トピックス		
(1) クリニックから二次救急病院へ紹介すべき消化管出血疑いの患者は？ そのタイミングは？	豊島 治・西澤 俊宏 松野 達哉・吉田俊太郎 崎谷 康佑・高橋 由至	1433～1439
(2) 消化管出血でとくに注意すべきハイリスク患者は？	木下 淳・井口 幹崇	1440～1444
(3) 急性下部消化管出血に対する大腸内視鏡検査のタイミング	新倉 量太	1445～1450
(4) 内視鏡治療後出血のマネジメント —緊急内視鏡の適応とタイミングは？	奥村 大志・堀田 欣一 今井健一郎・川田 登 小野 裕之	1451～1457
●Vol. 38 No. 12 非乳頭部十二指腸腺腫・癌の診療方針		
巻頭言—十二指腸癌診療ガイドラインについて	庄 雅之	1469～1470
1. 十二指腸腺腫・癌の疫学	芦澤 浩・吉田 将雄 小野 裕之	1471～1476
2. 十二指腸の観察法一定型の十二指腸内視鏡観察法の成績と確立に向けて	松井 崇矩・小塚 和博 小原 英幹	1477～1483
3. 白色光観察で注意すべき十二指腸病変とは	鳥谷 洋右・山田 峻 久米井 智・永塚 真	

4. 非乳頭部十二指腸腫瘍の内視鏡診断	梁井 俊一・松本 主之	1484~1488
	中山 敦史・加藤 元彦	
	高取 祐作・松浦 倫子	
	矢作 直久	1489~1496
5. 非乳頭部十二指腸腺腫・癌の病理診断	名和 純一・田中麻理子	
	牛久 哲男	1497~1503
6. 非乳頭部十二指腸腺腫は治療すべきか —経過観察例からの考察	鈴木 啓太・池之山洋平	
	吉水 祥一・藤崎 順子	1505~1513
7. 非乳頭部十二指腸腺腫・癌の内視鏡切除法と その選択	廣瀬 崇・古根 聡	
	古川 和宏・中村 正直	
	川嶋 啓揮	1515~1522
8. 十二指腸腫瘍に対する内視鏡治療の偶発症 対策	土肥 統・瀬谷真由子	
	落合都萌子・福井 勇人	
	岩井 直人・伊藤 義人	1523~1530
9. 内視鏡治療後のマネジメント	野中 哲・水口 康彦	
	鈴木 晴久・阿部清一郎	
	吉永 繁高・斎藤 豊	1531~1540
10. 十二指腸腫瘍に対する LECS	松井 亮太・布部 創也	
	吉水 祥一・幕内 梨恵	
	速水 克・大橋 学	1541~1548
11. 非乳頭部十二指腸腫瘍に対する外科治療	岡田 健一	1549~1554
12. 十二指腸癌(小腸癌)の薬物療法	片岡 滋貴・堀松 高博	1555~1560
症例報告		
(1) 術前診断が困難であった十二指腸病変の1例	栗原 光果・角嶋 直美	
	日向 宗利・牛久 哲男	
	藤城 光弘	1561~1563
(2) 十二指腸腸型腺腫の1例	永塚 真・鳥谷 洋右	
	遠藤 昌樹・柳川 直樹	
	菅井 有・松本 主之	1564~1567
(3) 十二指腸粘膜下層癌(球部後壁, 0-IIa+IIc型) の1例	山本 頼正・吉田詠里加	
	東畑美幸子・五味 邦代	
	長濱 正亞	1568~1571

(4) 非乳頭部十二指腸粘膜下層浸潤癌の1例	柴田 寛幸・廣瀬 崇	
	古川 和宏・古根 聡	
	川嶋 啓揮	1572~1577
●Vol. 38 No. 13 胆膵の画像・内視鏡診断の進歩 —早期診断と正確な診断のために		
巻頭言	中井 陽介	1597~1598
1. 膵癌早期診断 一放射線診断の立場から	中井 雄大	1599~1608
2. 膵癌早期診断 一内視鏡医の立場から	蘆田 玲子・川路 祐輝	
	北野 雅之	1609~1617
3. 膵嚢胞性腫瘍の診断とサーベイランスの現 状と課題 一IPMN大規模コホートの検証	大山 博生・濱田 毅	
	丹下 主一・高原 楠晃	
	中井 陽介・藤城 光弘	1618~1624
4. 閉塞性黄疸に対する内視鏡的診断アプ ローチ 一EUS/ERCP	栗谷 将城・米村 洋輝	
	野澤俊一郎・岸 法磨	
	杉浦 諒・川久保和道	
	坂本 直哉	1625~1631
5. 慢性膵炎の画像診断の進歩	大野 彰久・藤森 尚	
	寺松 克人・植田圭二郎	
	小川 佳宏	1632~1639
6. 自己免疫性膵炎における内視鏡診断の位置 づけ	内藤 格・中沢 貴宏	
	能登原憲司・吉田 道弘	
	堀 寧・片岡 洋望	1640~1646
7. 原発性・続発性硬化性胆管炎の画像診断	水野 卓	1647~1653
8. 胆嚢腫瘍性病変に対する内視鏡診断の役割	金 俊文・高橋 邦幸	
	林 毅・本谷 雅代	
	潟沼 朗生	1654~1659
9. Image enhanced EUS(造影・elastography) の進歩	大野栄三郎	1660~1668
10. EUS-FNA の最新のトレンド	脇岡 範・永塩 美邦	
	丸木 雄太・大場 彬博	
	奥坂 拓志	1669~1677
11. POCS/POPS(経口胆道鏡/膵管鏡)	向井俊太郎・祖父尼 淳	
	土屋 貴愛・田中 麗奈	
	殿塚 亮祐・糸井 隆夫	1678~1684

12. 胆膵疾患に対する confocal laser endomicroscopy (CLE) は何が見える？	水野 伸匡・羽場 真 奥野のぞみ・清水 泰博	1693～1698
13. 胆膵疾患における AI 診断はどこまで進んだか？	谷坂 優樹・良沢 昭銘 水出 雅文・藤田 曜 申 貴広・杉本 啓	1685～1691
	竹中 完・工藤 正俊	1699～1707
14. 胆膵内視鏡診療における X 線透視の現状と課題		
	桑原 崇通・原 和生	

内視鏡の読み方(連載)

Vol. 38 No. 1 大腸炎症性筋腺管ポリープ	津山 翔・片柳 和義 湊 宏・土山 寿志	572～577
Vol. 38 No. 2 NBI 併用拡大観察にて評価しえた pT1a, Epstein-Barr virus 関連リンパ球浸潤胃癌の 1 例	宮岡 正喜・筒井 章弘 中島 美紀・金光 高雄 田邊 寛・二村 聡 植木 敏晴・八尾 建史	1219～1223
Vol. 38 No. 3 発赤調陥凹型を呈した胃底腺粘膜型腺癌の 1 例	Vol. 38 No. 12 腫瘍長径 6 mm ながら SM2, 静脈侵襲陽性を認めた胃底腺粘膜型腺癌の 1 例	
Vol. 38 No. 4 胃内酸環境の変化が腫瘍の劇的な形態変化に関与したと考えられる除菌後発見早期胃癌の 1 例	照山 直樹・上尾 哲也 安部 真琴・秋山 英俊 九嶋 亮治・村上 和成	1584～1590
Vol. 38 No. 5 内視鏡的に三つのコンポーネントを有した胃底腺粘膜型腺癌の 1 例	Vol. 38 No. 13 食道疣状扁平上皮癌	
	小林 亮介・佐藤 博紀 尾関雄一郎・佐藤 知子 平澤 欣吾・前田 慎	1708～1711
	小澤 俊文・林田興太郎 三浦 恭資・白井 宏和 齋藤 雅也	101～105
	池見 雅俊・上尾 哲也 高橋 晴彦・和田 蔵人 久保山雄介・村上 和成	227～232
	小島 康司・内多 訓久	347～351
	吉田 尚弘・川崎 梓	

講座(連載)

Vol. 38 No. 5 消化器内科医が知っておきたい内視鏡 AI 一検出支援システム(CADe), 病理診断予測(CADx)の普及状況	森 悠一・工藤 進英 三澤 将史	579～582
---	---------------------	---------

胆膵超音波内視鏡の読み方と描出法(連載)

Vol. 38 No. 1 第 7 回 胆嚢病変	Vol. 38 No. 2 第 8 回 膵嚢胞性病変 1	
竹下宏太郎・脇岡 範	前原 耕介・脇岡 範	213～217
111～117		

Vol. 38	No. 3				
第 9 回	膵嚢胞性病変 2	前原	耕介・肱岡	範	331～333
Vol. 38	No. 4				
第 10 回	膵嚢胞性病変 3	前原	耕介・肱岡	範	482～486
Vol. 38	No. 5				
第 11 回	膵嚢胞性病変 4	前原	耕介・肱岡	範	583～586
Vol. 38	No. 6				
第 12 回	膵充実性病変 1	丸木	雄太・東江	大樹	
		萩原	悠也・原	英展	
			肱岡	範	700～703

Vol. 38	No. 8				
第 13 回	膝充実性病変 2	丸木 雄太・東江 大樹	萩原 悠也・原 英展	肱岡 範	1107~1109
Vol. 38	No. 9				
第 14 回	膝充実性病変 3	丸木 雄太・山重 大樹	岡本 浩平・高崎 哲郎	平岡 伸介・肱岡 範	1225~1230
Vol. 38	No. 10				
第 15 回	膝充実性病変 4	丸木 雄太・山重 大樹	岡本 浩平・高崎 哲郎	平岡 伸介・肱岡 範	1334~1337

||||| 消化管異物の診断と治療 (連載) |||||

Vol. 38 No. 1		
食道異物の診断と治療	石山晃世志・堀川 宜範 志波 慶樹・鉄地川原香恵 濱田 晃市・西野 徳之	106～110
Vol. 38 No. 3		
小児消化管異物の内視鏡的治療	立花 奈緒	352～356
Vol. 38 No. 5		
成人胃内異物の内視鏡治療	田邊 聡・和田 拓也 田邊 美奈・深川菜央美	

石橋	侑・草野	央	587～591
Vol. 38 No. 8			
胃石の診断・治療			
岩室	雅也・岡田	裕之	1110～1113
Vol. 38 No. 10			
小腸異物の診断と治療—内視鏡治療を中心に			
森川	昇玲・砂田圭二郎		1338～1342
Vol. 38 No. 11			
大腸内異物の内視鏡治療			
松尾	海・浦上	尚之	
田邊	万葉・横山	登	
	井上	晴洋	1458～1462

||||大腸ポリープに挑む(連載)|||

Vol. 38	No. 1			
第 8 回	出血傾向にある患者における大腸ポリープ切除の注意点	間部	克裕	91~95
Vol. 38	No. 2			
第 9 回	大腸鋸歯状病変のマネジメント	佐野	互・杉村	直毅
		平田	大善・岩館	峰雄
		佐野	寧	219~225
Vol. 38	No. 3			
第 10 回	腺腫・癌以外の大腸ポリープのマネジメント	大瀬良省三・山田	崇裕	
		友利 彰寿・工藤	彰治	

	福島 秀樹・比佐 岳史	334~340
Vol. 38 No. 4		
第 11 回	大腸ポリポーシス患者のマネジメント 鈴木 桂悟・千野 晶子	477~481
Vol. 38 No. 5		
第 12 回	大腸がん検診・大腸ポリリープ切除後 サーベイランスにおけるリスク層別の 意義—大腸内視鏡検査の有効活用に向 けて 関口 正字	592~597
Vol. 38 No. 6		
第 13 回	内視鏡的大腸ポリリープ切除後サーベ イランス 堀田 欣一・松田 尚久	705~710

||||「胃炎の京都分類」の使い方(連載)|||

Vol. 38 No. 1 第 7 回 腸上皮化生の診断(WLI)	川村 昌司	96～100	Vol. 38 No. 6 第 12 回 P-CAB に伴う胃症の内視鏡像	久保 公利・早坂 秀平 田中 一光	695～699
Vol. 38 No. 2 第 8 回 腸上皮化生の内視鏡診断(NBI)	金光 高雄・上堂 文也 二村 聡・長谷川梨乃 八尾 建史	233～237	Vol. 38 No. 8 第 13 回 Non- <i>Helicobacter pylori</i> - <i>Helicobacter</i> (NHPH)胃炎の内視鏡診断のポイント	間部 克裕・井上 和彦 春間 賢・加藤 元嗣	1114～1117
Vol. 38 No. 3 第 9 回 腸上皮化生の診断(LCI)	八木 信明	341～346	Vol. 38 No. 12 第 14 回 スクラッチサインはどのようにできる のか	今川 敦・佐野 暢哉	1579～1583
Vol. 38 No. 4 第 10 回 腸上皮化生の診断(組織)	小刀 崇弘・田中 信治 伊藤 公訓	467～470	Vol. 38 No. 13 第 15 回 粘膜吸引後にできるスクラッチサイン	加藤 元嗣・津田 桃子 久保 公利	1712～1715
Vol. 38 No. 5 第 11 回 自己免疫性胃炎の萎縮未完成期内視鏡 像(初期像を含む)の特徴	小寺 徹	567～571			

||||学会だより|||

Vol. 38 No. 2 JDDW2022 第 104 回 日本消化器内視鏡学会総 会	塩谷 昭子	218	Vol. 38 No. 9 第 109 回 日本消化器病学会総会	高山 哲治	1224
Vol. 38 No. 3 JDDW2022 第 20 回 日本消化器外科学会大会	大段 秀樹	330	Vol. 38 No. 10 第 59 回 日本肝臓学会総会	浪崎 正	1318
JDDW2022 第 64 回 日本消化器病学会大会	名越 澄子	357	Vol. 38 No. 11 第 105 回 日本消化器内視鏡学会総会	入澤 篤志	1432

『臨牀消化器内科』編集委員会

編集委員：小池 和彦，藤城 光弘，松田 尚久，山本 頼正，佐田 尚宏，
山道 信毅，中井 陽介，角嶋 直美

編集協力者：多田 正大，樫田 博史

ゲストエディター：花田 敬士(No. 2)，中川 勇人(No. 3)，加藤 順(No. 4)，藤原 靖弘(No. 6)，
厚川 正則(No. 7)，清水 雅仁(No. 10)

歴代編集委員：岡 博(故人)，島津 久明(故人)，玉熊 正悦(故人)，棟方 昭博，市倉 隆，
中村 孝司(故人)，丹羽 寛文(故人)，田尻 久雄，五十嵐正広，一瀬 雅夫，
杉山 政則，屋嘉比康治